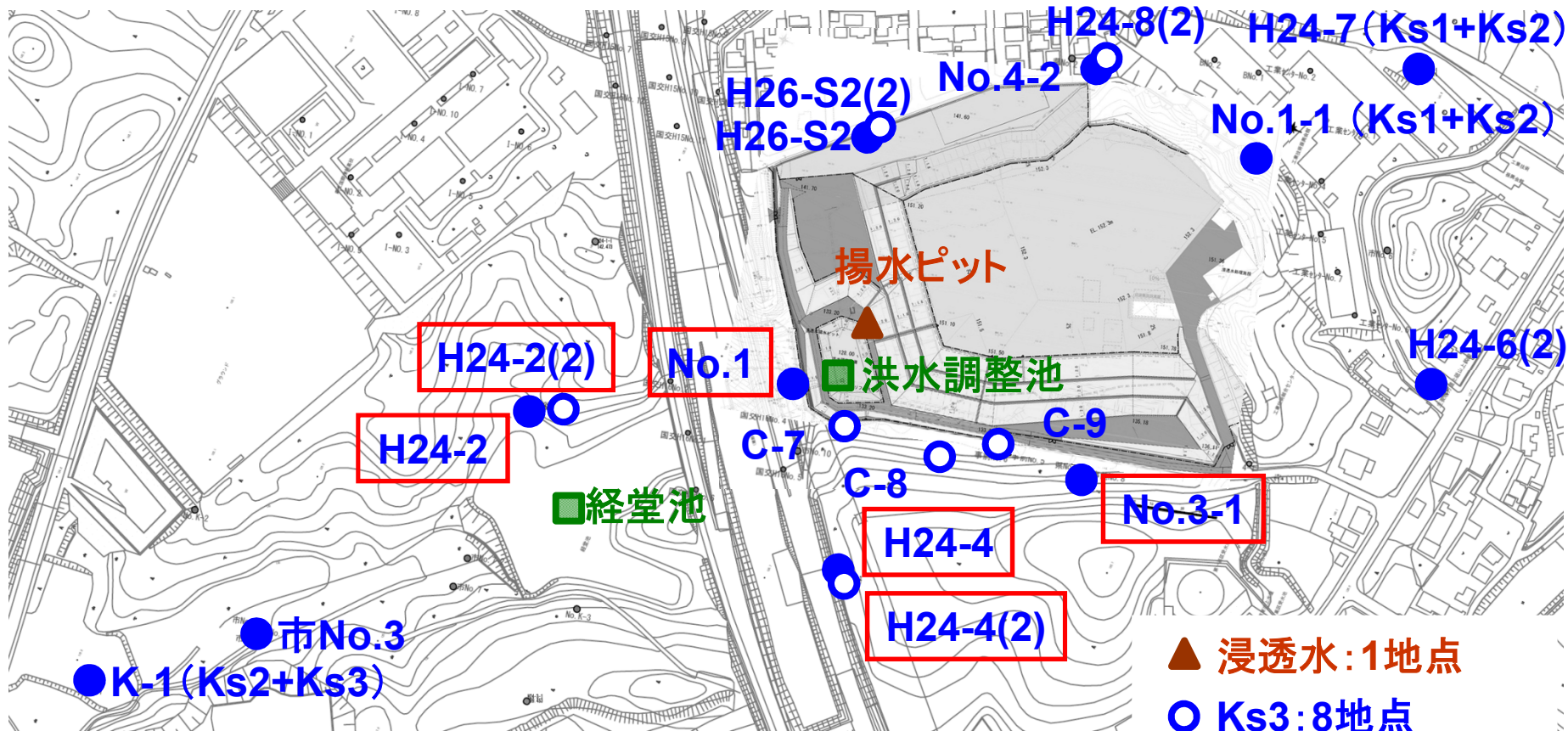


令和3年度第1回
モニタリング調査結果について
令和3年(2021年)9月(書面開催)

調査地点



▲ 浸透水: 1地点

○ Ks3: 8地点

● Ks2: 11地点

■ 表流水

□ : 実施計画の目標達成状況の評価に用いる地点

調査日

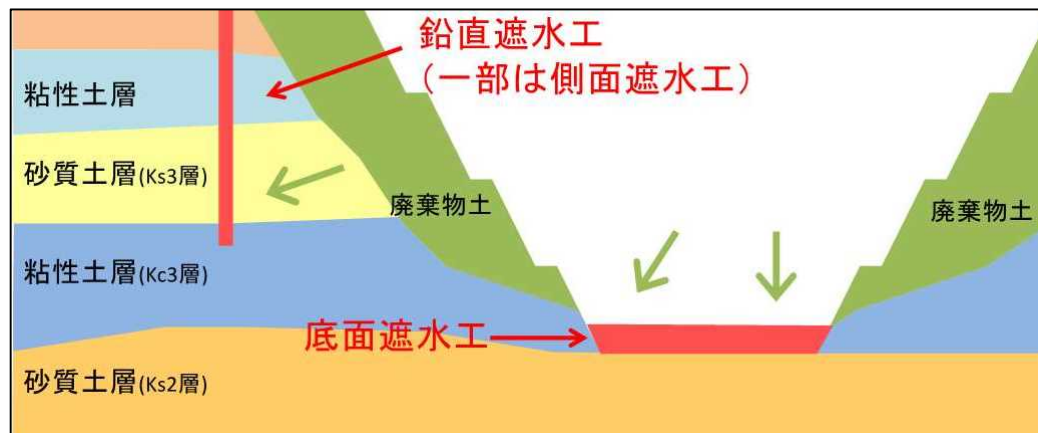
◆ 令和3年(2021年)5月24日

◆ 令和3年(2021年)5月26日(経堂池のみ)

(特記事項)

- C-7は、パージ作業を行い水質が安定してから採水を行っている途中に、くみ上げている水が一時的に周辺土粒子等で濁った水となり、それが試料に混入したと考えられる。そのため、通常の地下水の状態とは異なる試料であったおそれがあるため、分析結果は参考値として取り扱う。
- H24-8(2)は、水量が僅かであったためpHおよびECのみを測定した。
- C-9は、水量が少なかったためダイオキシン類以外を測定した。

(参考)地下水帯水層と遮水工事の位置関係

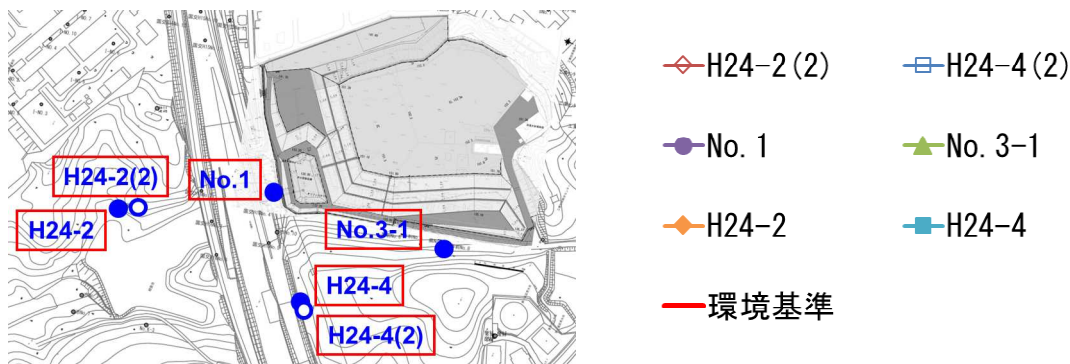


- ◆ 廃棄物土層の側面に砂質土層(Ks3層)が接しており、廃棄物土に触れた浸透水が漏洩していたため、鉛直遮水工または側面遮水工により遮水した。
- ◆ 廃棄物土層の底面において粘性土層(Kc3層)が欠損しており、廃棄物土層の底面に接した砂質土層(Ks2層)へ廃棄物土に触れた浸透水が漏洩していたため、底面遮水工により遮水した。

経年モニタリング調査について

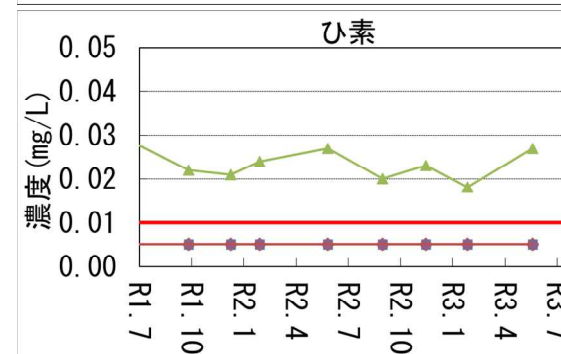
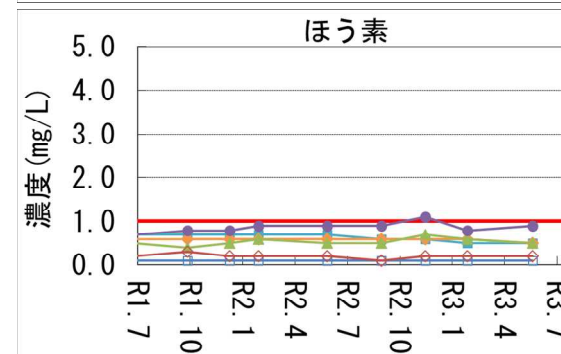
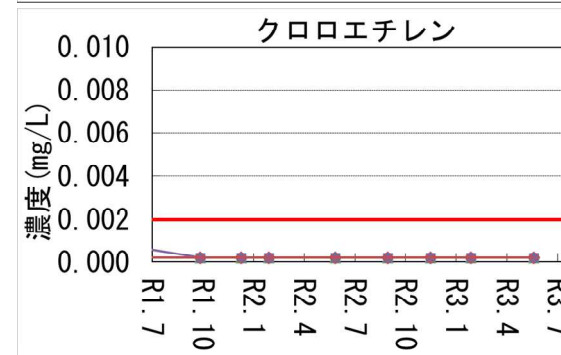
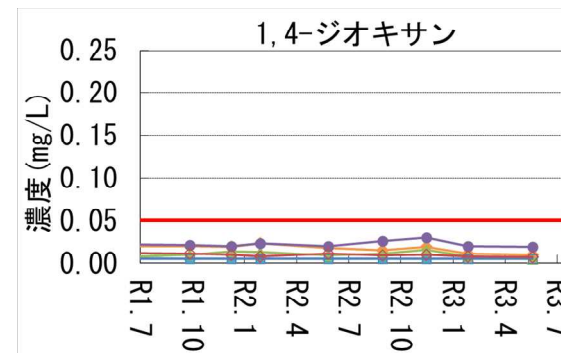
1 目標達成状況の評価対象地点の状況

- 産廃特措法に基づく実施計画の目標達成状況の評価には、調査地点のうち下図の評価対象地点6地点の結果を用いていることとしている。（令和2年11月第35回連絡協議会資料3-1）
- 二次対策工事の着手（H25(2013).12.20）以降に地下水環境基準を超過したことがある項目について、直近8回分の結果をグラフに表示した。（工事終了前の結果を含むため参考扱い）
- ひ素について、No.3-1で継続して環境基準を超過している。
- その他の項目は年平均値が環境基準を超過するものはない。



(参考)産廃特措法実施計画の目標達成状況の評価
評価対象地点6地点における結果を用いる。

- ・ 測定値の年平均値が環境基準に2年間適合すること。
- ・ 処分場が原因でない項目は除く。

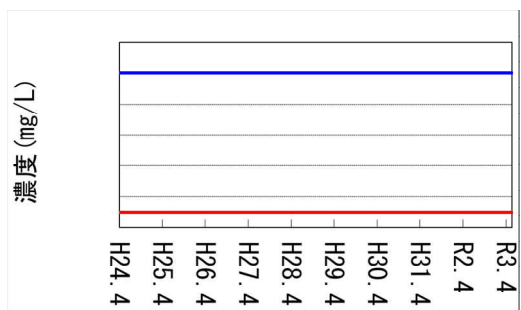


経年モニタリング調査について

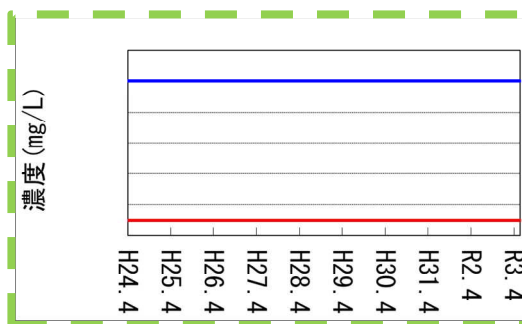
2 項目ごとの経年変化状況

- (P6~P15)二次対策工事の着手(H25(2013).12.20)以降に地下水調査地点で地下水環境基準を超過したことがある項目(ひ素、ほう素、クロロエチレン、1,4-ジオキサン)および電気伝導度について、経年変化のグラフを帯水層ごとに表示した。
- グラフは平成24年度以降のグラフとし、それ以前の測定結果をグラフ左端に白抜きで示した。
- 定量下限値未満の場合、定量下限値としてグラフに表示した。
- なお、家庭系ごみの影響に関する調査地点(C-7、C-8、C-9)についてはP16~P17に、洪水調整池についてはP18に、経堂池についてはP19に結果を示した。

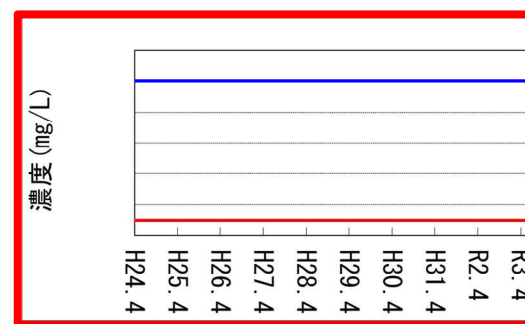
凡例



今回不検出

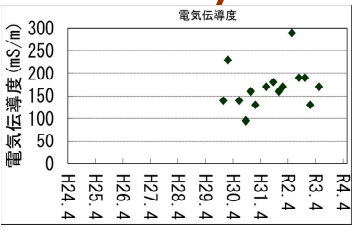
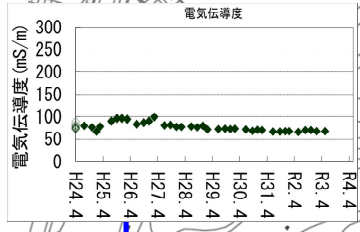
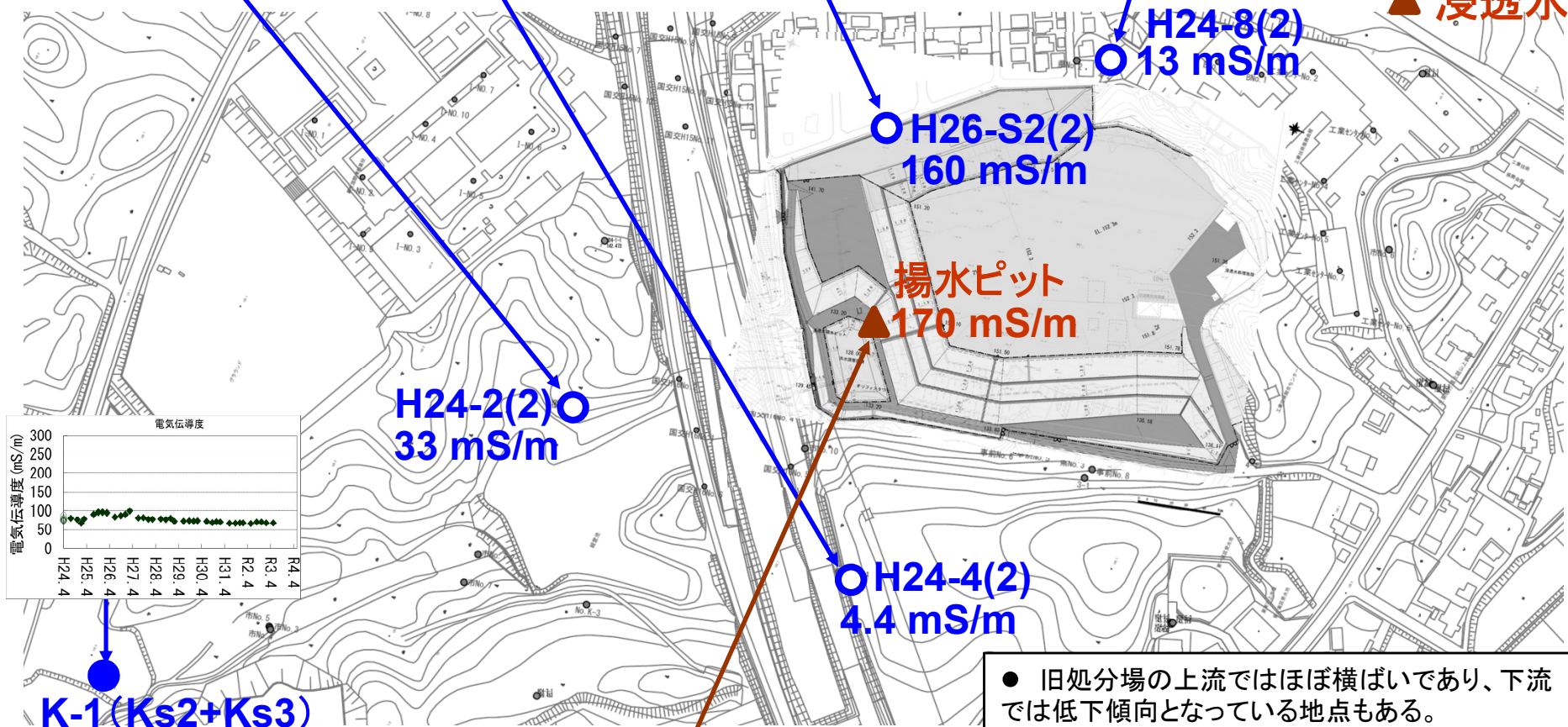
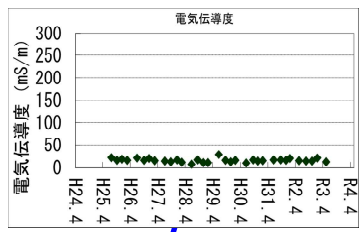
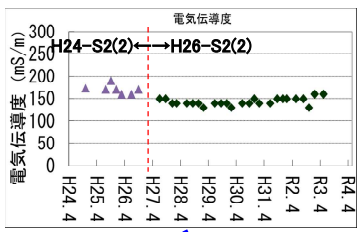
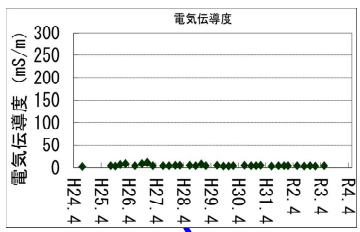
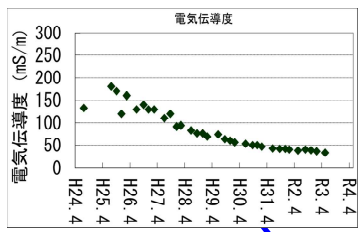


今回環境基準以下で検出



今回環境基準超過

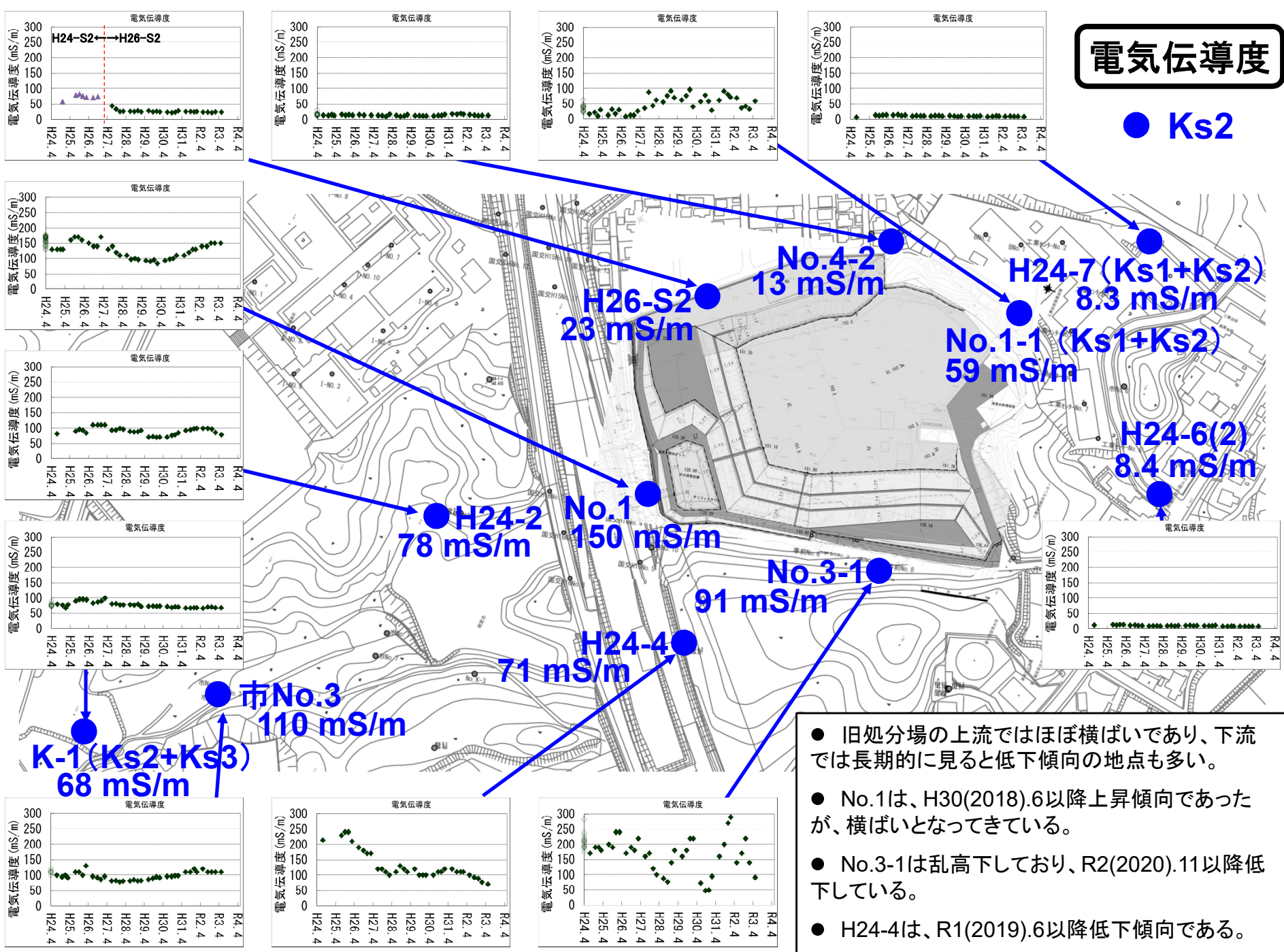
電気伝導度



- 旧処分場の上流ではほぼ横ばいであり、下流では低下傾向となっている地点もある。
- H24-2(2) は、H25(2013).7以降低下傾向である。

電気伝導度

● Ks2



- 旧処分場の上流ではほぼ横ばいであり、下流では長期的に見ると低下傾向の地点も多い。
- No.1は、H30(2018).6以降上昇傾向であったが、横ばいとなっている。
- No.3-1は乱高下しており、R2(2020).11以降低下している。
- H24-4は、R1(2019).6以降低下傾向である。